

インレビック治療を受ける患者さん・ご家族の方へ

副作用を疑う症状または徴候があらわれたら

特に注意が必要な副作用

ウェルニッケ脳症

インレビックの服用中に以下の徴候または症状のいずれかが認められた場合は、インレビックの服用を中止し、すみやかに医師に相談してください。

- ・意識の低下 ・意識の消失 ・考える力の低下 ・記憶力の低下 ・異常な行動 ・けいれん
- ・自分の意思とは関係なく身体が動く ・手足の動きがぎこちない ・しゃべりにくい
- ・ふらつき ・まっすぐ歩けない ・目を自由に動かせない ・二重に見える

これらは、死に至るおそれがあるウェルニッケ脳症を含む、脳症を疑う症状もしくはその徴候である可能性があります。

ウェルニッケ脳症を予防するために

- インレビック服用中は、医療機関より処方されるビタミンB₁ (チアミン) を必ず毎日服用してください。
- インレビックの服用を始める前に血液検査でビタミンB₁濃度を測定し、値が低ければビタミンB₁補充を行います。ビタミンB₁濃度が正常値に回復するまでインレビックの服用を始めることはできません。
- インレビック服用中にも、必要に応じてビタミンB₁濃度の測定を行うことがあります。
- 下痢、吐き気、嘔吐、食欲不振などは、栄養失調や体重減少を引き起こしビタミンB₁欠乏の原因となるため改善が必要です。これらの症状がインレビック服用中に、日常的にみられる場合は、医師に相談してください。インレビックによる嘔吐や下痢を軽減するために、制吐剤 (吐き気・嘔吐を抑えるお薬) や止瀉剤 (下痢止め) を予防的に服用していただくことがあります。
- インレビック服用中の吐き気や嘔吐の症状は、インレビックを食事とともに服用することで軽減できることがあります。

ウェルニッケ脳症の詳細や治療については裏面をご確認ください。

医療機関名

ウェルニッケ脳症とは¹⁾

ウェルニッケ脳症ではビタミンB₁の不足により、脳の奥のほうの部位(脳幹部)に微小な出血が起こり、細かい眼の振るえ(眼振)や目の動きに制限が出る(眼球運動障害)、意識障害などの精神状態の変化、ふらつき(失調性歩行)といった様々な症状が急激に出現します。

ビタミンB₁不足を生じるすべての病気でウェルニッケ脳症が起こる可能性があります。発症直後にビタミンB₁を大量に点滴すれば回復することができますが、実際には見逃されることが多く、治療しなければ死亡率は10～17%と推計されています。死亡には至らなくとも56～84%が記憶力障害や失見当識、作話を特徴とするコルサコフ症候群へ移行していきます。一旦コルサコフ症候群になると回復は困難であるため、ウェルニッケ脳症の段階で早期発見・早期治療することが重要です。

1) 健康日本21アクション支援システム～健康づくりサポートネット～
(<https://kennet.mhlw.go.jp/information/information/dictionary/alcohol/ya-052>)
(2025年5月閲覧)

ウェルニッケ脳症の治療

- ウェルニッケ脳症を発症してしまった場合には、直ちにビタミンB₁の静脈内注射または筋肉内注射により治療します。
- 重症化を防ぐためには、できるだけ早い段階で発見し、治療を開始することが必要です。

その他に注意が必要な副作用

ぶどう膜炎

ぶどう膜炎等の眼の異常があらわれることがあります。ぶどう膜炎とは、眼球を覆っている「ぶどう膜」と呼ばれる組織に炎症が起こる病気で、重症になると視力が低下し、失明に至る場合もあります。インレビックの服用に伴うぶどう膜炎は、治療を始めてから数カ月～2年以上経過してからあらわれることがあります(遅発性)。次のような症状が認められた場合は、すみやかに医師に相談してください。

- ・目がかすむ ・視力の低下 ・視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える
- ・まぶしい ・目が痛い ・目の充血 ・目がチカチカする

これらの症状や他にも気になることがあれば担当医へご相談ください。